

## サービ斯拉ーニングでの収穫

活動先：NPO 法人 孝行の会

クラス：松下 典子 先生

はじめに

サービ斯拉ーニングの活動を行い、私はこの1年間を内容の濃いものにすることができた。サービ斯拉ーニングの活動は、普通のゼミでは経験することのできない活動であり、1年生での学びを活かし、自分の興味・関心を深め、広げることのできる活動であると私は思う。今回の活動では、NPO 法人「孝行の会」という主に訪問介護事業を行っている場所が私の活動先となった。「孝行の会」では、40歳代以上の利用者がおり、その多くを一人暮らしの女性の高齢者が占めている。サービス提供の責任者である会長や運転手などのスタッフは男性であるが、ヘルパーは50歳以上の女性の方がほとんどであった。「孝行の会」は、親孝行の精神を大切にし、利用者の子どもの代わりに利用者へ寄り添うサービスの提供や活動を行っている。そんな活動先での8日間の活動を含め、サービ斯拉ーニングでの活動を振り返りたいと思う。

### 1. 自分の成長と気づき

#### 1) 積極性

私は、成長した点として活動を通して積極的な姿勢を強めることができたと思う。初期にあったNPO 法人の現場をみるバスツアーをはじめ、活動先の方との話し合いや事前訪問、活動日当日での利用者とのコミュニケーション、活動先の方へのインタビューなど積極的に話を伺ったり、疑問点があれば解消しようとしたり、メモをとったりと、年間を通して活動の取り組みの姿勢を良くさせることができた。この積極的な姿勢によって、活動中に利用者の良い反応を見られたり活動先の方から丁寧な手厚い指導をしてもらえたりしたのではないかと感じた。

#### 2) 地域を捉える

活動前は授業の中で、活動中は活動の現場の中で、それぞれの場で地域という枠組みを意識することができた。最初、授業の中で地域福祉を進める上でのキーワードを自分なりに見つけることから始まったが、活動後までの段階を踏んで自分が気づいた点や疑問に思った点、発見したことなどを地域と結びつけて考えることができるようになった。これらは、現場を経験したからこそ考えられるようになったことであって、仮に現場を経験していなかったとしたら地域福祉について考えたとしても理屈ばかりになってしまうのではないかと考えた。活動の現場を地域福祉と関連付けながら考えるようになったことは、私が成長した点であると思う。

#### 3) 計画力

私は活動を通して、計画力の重要さに気付かされた。サービ斯拉ーニングの活動では、夏休みの活動中の企画を計画する際に活動先の方からの助言ももちろんあるが、

自分たちで企画に必要な資料や道具などを集め、現場の流れについても考えなければならぬ。当日に何が起るかわからないため、十分な下準備と綿密な計画、臨機応変な対応などが必要になる。今回の活動では、道を反れながらも最終的にゴールにたどり着くことができたが、企画を計画する際には具体性を持ち、グループで協力する必要があるということに気付いた。

## 2. 活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

### 1) 制度による縛り

介護保険法に基づいたサービスを行う訪問介護の現場を見させていただいて、私は制度による縛りを感じた。医療行為を必要とする利用者の多くは、経済的理由により高い頻度では看護師からの医療行為を受けることができないのが現状であった。もし、ヘルパーの医療行為が認められるようになれば、利用者の負担は軽減されるだろう。今後、在宅介護が主流になるにつれ要介護度が高い人の増加が考えられる。したがって、医療行為の問題について制度面での改革が必要となるだろう。

### 2) 独居老人へのサポート

訪問介護での利用者の多くは、独居老人の方や家族と同居しているが日中家族は仕事へ行くため、1人で過ごされている方であった。また、1人では外出をされることも困難な方もおられた。このように、1人での時間が多いという現状を現場を通して発見した。1人での時間が多ければ、会話をする機会が無く事故が起きた場合には助けを求めることもできない。唯一の会話の機会といえばヘルパーが訪問した時であるように思えた。私は活動を通して、独居老人への会話をする機会の提供や地域住民の協力、連携のしくみづくりなどサポートが必要であると考えた。今後も独居老人への対応策を工夫していく必要があるだろう。

### 最後に

サービスラーニングの活動を通して、様々につながる力や訪問介護の現状、NPOの活動や現状など多くのものを収穫することができた。また、孝行の精神など「孝行の会」で活動したからこそ収穫したものも多い。サービスラーニングで活動したことを自信に繋げ、そして、これらの収穫をこれからの大学での学びや進路選択、将来へ生かして活動していきたい。

疑問は活動先指導者に質問しながら  
NPO活動について広く理解を深める。

